

タットン会 通信

2006. 5. 20

今年度（2006年度）のタットン会は助成金の申請は行ないませんでした。従って、施設使用料、シャトルやボール・ラケット・大会賞品等の消耗品・中高生ボランティアの旅費等々の費用を捻出していかねばなりません。より多くの方々に協力を頂き、共に障がいに対する理解を深めていきたいと思っています。よろしく御願いいたします。

- ◎ タットン会ホームページ <http://www.geocities.jp/tattonkai/>
『タットン会』と入力しても検索できます。皆様からの掲示板コメントもお待ちしております。
- ◎ 日時・場所についての確認のみ → ボランティアセンター 046(825)0017

5年目のタットン会がスタートいたしました。

1年目2年目は横須賀市の助成を受け、3年目は神奈川県の『ゆめ国体助成金』、そして昨年の4年目は独立行政法人福祉医療機構の助成金（決算に関しては添付資料を参照）を受けて活動をしてきました。

しかし、今年度は上記のように、助成金に頼ることなく会を進めていかねばなりません。そこで、4月15日の「2006年度年間活動」についての事務局会議（17時半～21時近く）では、次のような内容を話し合いました。（ホームページ4月16日付けの掲示板にも書かせて頂きました。）



【事務局会議の概要】

1. 2005年度活動報告書と国の助成金収支決算説明
2. バドミントンタットン会新ルール
3. タットン会会則の見直し
4. 受け付け・初参加者の対応
5. 年間活動計画確認及びチーフ決定と『余暇と進路』通信原稿担当者依頼
6. その他、①チャレンジャー（お子様）の顔と名前が覚えづらいのでチャレンジャーカードに可能な限り写真を貼りましょう（←どんな写真でも構わないと思います）
- ②受け付けの際には出席簿は必要ないのではないか？
- ③手話担当の石堂さんいわく、『参加できた時には、入り口にて、手話で挨拶をしようと思う。』
- ④市立養護の八木・向井両先生の参加も心強いものでした…。

3月25日 43回目タットン会 感想・参加者カード・気がついたこと～より

- ※1 ～人が大好きな苑子さんなので好きな人の声に反応しておしゃべりが始まります。どの子も集中力には限界があり、休憩時間を持たずにその子にあわせた時間の区切りをしても良いかなど感じました。上手くなつて欲しい気持ちばかり勝ってしまい、もう少し余裕のある対応が出来れば良かったかなと反省です。（W・Tさん）
- ※2 本当は母子は離れていいようと思いましたが、今日は試しに母子で組んでみました。気持ち良い汗をかきました。（T・Sさん）
- ※3 開始前にバドミントンをやって汗びっしょりになりました。今日は幸一さんと俊也さんのラリーを楽しく見せてもらうことが出来ました。スポーツを通して、人と人がふれあう時間を持つて素敵だなと改めて思いました。（N様）
- ※4 ～今まで相手をしてきたパートナーの人は、ミスしたシャトルを取りにいってくれなかつたのですが、ヤス君はシャトルを取りにいってくれました。（中学生ボラ S・Tさん）
- ※5 バドミントン、後ろから支える形で風船、シャトルを使ってやりましたが『イチ、二一』と数えると楽しそうでした。後半は、体育館を散歩しました。たくさん身体を動かせたと思います。一風船やシャトルにきちんと目が向けられるようにしてあげると良いと思います。（H・Tさん）

— 皆様の感想を載せることが出来ず、ごめんなさ～い！ —

進路と余暇を考える

中学校卒業後の進路について考えてみたいと思います。現在、三浦半島の養護学校や特殊学級を卒業した生徒たちの進学先は県立武山養護学校の高等部にはほぼ決まっています。他に選択肢が無いのです。一般に中学を卒業する生徒には公立、私立を含め少なくとも2~3校の選択幅があるといえます。

高校入試は学力検査が中心です。極端にいえば9教科の成績したいです。養護学校や特殊学級を卒業した生徒には不利な制度になっています。神奈川県では新しい入試制度になり、前期で「総合的な選考」という基準が出来ましたが、中身は内申点と部活などです。知的障害を持つ生徒に不利なことは明らかです。

しかし、教育委員会も高校教員もこの問題には冷淡です。ごくまれに全日制高校に合格する生徒がいますが、それは定員割れである場合がほとんどで、この問題に対する関係者の考えが変わった結果ではありません。内申・入試で点数が取れなければ「不合格」というのでは、知的障害のある生徒の進路の保障という観点からみてあまりに不公平ではないでしょうか。「特別な配慮」が必要だと考えます。

実は、現在の入試制度でも神奈川総合高校に「中途退学者枠」や「帰国子女枠」など特別枠による選考が行われています。また、「総合的な選考の基準」に「障害を克服し学習する意欲のある者」を掲げた高校もあるのです。つまり、この三浦半島の公立全日制高校でもやる気さえあれば「特別な枠という配慮」をした入試は可能なはずです。

しかし、この問題の存在にすら思いが及ばない人がほとんどです。ですから、私達はこの問題を多くの人に伝え、また、大阪の「調査研究指定校」方式による知的障害のある生徒の受け入れの様子などを広く知らせて、考えてもらうことが必要ではないでしょうか。

事務局 播岡 聰

第45回タットン会 本日 5月20日の流れ 於 サブアリーナ

9:00~ 準備・受付

9:30 本日の説明 ペアになって、カード読み・聞き取り 自己紹介・握手をしよう！
体操（ディズニー or ラジオ体操）、各種目へ（持続回数に挑戦など）

10:20 休憩

10:40~ 後半競技～（試合形式に挑戦）

11:10頃 パラシュート！

11:20頃 片づけ・モップ、集合隊形
(手話コーナー)・けがの確認

11:40頃 解散です！



—お 矢口 ら せ —

5月31日(水) 15:00~15:30 FMブルー湘南ラジオ(78.5MHz)で皆様を代表し、タットン会の紹介をしてきます。

サポートセンター主催で月に3回程度ボランティアの紹介の番組があるようです。『こんな事を話してきて欲しい』という要望があれば、直接浜島お姉さんか浅羽姉さん、佐藤またはアンケートにご記入頂ければと思います。今のところ、活動の趣旨・目的・様子・今後の課題などをお話ししてこようと思っております。

《 今年度の予定 》

45回目	<u>5/20 (サブアリーナ 本日)</u>	51回目	11/18 or 25 (未定)
46回目	<u>6/17 (県立保健福祉大決定)</u>	2007年	
47回目	7/29 (未定)	52回目	12/16 (未定)
48回目	8/19 or 26 (未定)	53回目	1/20 or 27 (未定)
49回目	9/23 or 30 (未定)	54回目	2/17 or 24 (未定)
50回目	<u>10/21 (サブアリーナ) (市内中学校駅伝大会)</u>	55回目	<u>3/24 (メインアリーナ)</u>
			タットン大会予定

タットンかず